

博士論文要旨

関西福祉大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程	学籍番号 8117104 氏 名 林 真二
論文題目	地域高齢者の虐待を早期に把握するための民生委員用チェックリストの 開発に関する研究
<p>研究目的</p> <p>急速な高齢化の進展や核家族化により、地域高齢者の虐待やその疑いが増加し、高齢者及び家族介護者への支援が、地域看護活動として喫緊の課題となっている。地域高齢者の虐待予防には、住民の生活状況把握や生活相談等を日常的に行っている民生委員と保健センター・地域包括支援センターの保健福祉専門職との連携による虐待予防を意識した積極的な関わりが求められる。本研究の目的は、民生委員が虐待状況を地域高齢者の日常生活行動から早期に把握できるよう、民生委員用高齢者虐待チェックリスト（以下、チェックリストと記す）を開発し、保健福祉専門職の活動につなぐことにより地域高齢者及び住民の QOL 維持向上に貢献することである。関西福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：関福大発第 29-0205 号）。</p> <p>研究方法</p> <p>1) 先行研究より抽出した専門職用のアセスメント表等から高齢者虐待の疑われる場面や状況を示すデータを抽出し 40 項目のアイテムプールを作成した。次に 25 項目のチェックリスト案を作成した。</p> <p>2) 作成した 25 項目のチェックリスト案について A 県 B 町の民生委員 48 人、C 市の保健師・看護師及び福祉専門職（以下専門職と記す）108 人を対象に調査を行った。民生委員には「虐待の疑いの程度」と「遭遇経験の有無」、専門職には「虐待の疑いの程度」、「事実確認の必要性」を項目ごとに回答を求めた。民生委員と専門職間での項目ごとの比較は Mann-Whitney 検定をした。チェックリスト案の信頼性と妥当性の検証は、専門職から得た「虐待の疑い」得点を観測変数として因子分析を行った。なお、統計解析は、SPSS Statistics Ver.24 及び SPSS Amos Ver.25 を用い分析した。有意水準は 0.05 以下とした。</p> <p>3) 統計分析により信頼性・妥当性が支持された 19 項目から成るチェックリストを、C 市の民生委員に配布し、該当する事例に遭遇した場合には状況を記載し、専門職への提出を依頼した。</p> <p>研究結果</p> <p>チェックリスト案への回答者は B 町民生委員 40 人(有効回答率 90.9%)、C 市専門職 86 人(有効回答率 93.5%)で、専門職は 51.1%が看護職であった。チェックリスト案の 25 項目における虐待の疑い得点は、いずれも民生委員が専門職より低かったが 1 点以上の差はみられなかった。コメント、項目分析及び探索的因子分析の結果、4 因子 19 項目が抽出された。第 1 因子 (9 項目)【家族介護力の低下】、第 2 因子 (4 項目)【高齢者の生活行動が不自然】、第 3 因子 (4 項目)【本人の訴え】、第 4 因子 (2 項目)【所在の不確定】と命名した。影響する高次因子を「虐待の予兆」と仮定して、4 因子との関連性について確認的因子分析を行った。適合度指標は、GFI=0.917, AGFI=0.884, CFI=0.934, RMSEA=0.058 となり、信頼性・妥当性においておおむね支持する結果が得られた。</p>	

4 因子 19 項目から成るチェックリストを用いた民生委員からの事例報告は 6 か月間で 10 事例あった。4 因子の該当状況を見ると、家族介護力の低下が 23 件(71.9%)、生活行動の不自然が 7 件(21.9%)、本人の訴えが 1 件 (3.1%)、所在の不確定が 1 件 (3.1%) あり、すべての因子で該当していた。専門職の対応内容は、訪問対応が 8 件、ケア会議の開催が 6 件であった。

考察

チェックリスト項目はいずれも高齢者及び家族介護者の日常生活行動から評価できるように作成した。4 因子 19 項目から構成されるチェックリストは、【家族介護力の低下】9 項目、【高齢者の生活行動が不自然】4 項目、【本人の訴え】4 項目、【所在の不確定】2 項目あり、実際の民生委員活動では、4 因子すべてが該当した。特にチェックリストは民生委員の日常的な見守り支援の中で使用が可能であり、専門職は報告のあった高齢者の虐待状況の判断や相談・支援に対応するための多職種との連携強化に活用された。またチェックリストを通して民生委員が把握した内容は、地域看護活動として虐待の早期発見や虐待防止につながれるとともに、地域高齢者と家族介護者の心身の状況及び生活環境を把握できる情報となることから、健康や療養上の生活相談・支援対応に発展させることも期待できる。そして民生委員活動と専門職活動の連携強化により、予防的ネットワークが構築され、地域全体の虐待予防活動、防止活動に展開する可能性もある。

結論

先行研究から作成したチェックリス 19 項目は、民生委員と専門職へのアンケート調査及び統計分析を通して、信頼性・信賴性を検証した。またチェックリストを使用した民生委員と対応する専門職の活動状況を確認した結果、民生委員がチェックした項目を活用することによって高齢者虐待の早期発見、虐待防止の相談・支援活動が可能であった。今後開発したチェックリストの活用により、地域看護活動における虐待予防として高齢者の生活相談支援、住民への虐待防止教育活動、さらに住民・専門職虐待防止ネットワークづくりに発展することが期待できる。

主指導教員氏名 小西美智子